

# eポートフォリオ による自己教育力の育成

～モバイル端末を活用した参画型看護教育で培うキャリア育成～

**看護力**

eポートフォリオ  
システム

看護者としての  
自己教育力の育成

人々

知と知をつなぐ教育

**参画力**

参画支援  
システム

初年度(2008年度)

看護力の到達目標を整備し、eポートフォリオのソフトウェアを開発した。  
同時に、学内アクセスポイントの設置と情報ネットワークを構築した。

2年目(2009年度)

新入生から順次eポートフォリオシステムの運用を開始している。これまで実施していた  
参画支援システムのさらなる充実を図った。

## 「質の高い大学教育推進プログラム」とは

大学設置基準等の改正等への積極的な対応を前提に、各大学・短期大学・高等専門学校における教育の質の向上につながる教育取組を公募。その中から特に優れた取組を選定し、社会に情報提供するとともに、重点的な財政支援を行う施策です。

全国939件申請中

**148**件選定

## 選定理由

本取組は、「看護力」と「参画力」育成のために、現代の学生に欠けている「自己教育力」を強化するという視点から、新しい参画型教育手法に取り組むもので、極めて現代的な教育プログラムとして高く評価できる。特に、モバイル端末を利用し、「参画支援ソフト」や「eポートフォリオシステム」を用いた学習方法は、現代学生にも親しみやすいものであり、授業運営にも新しい効用をもたらすことが期待できることから、他の短期大学においても参考になるものである。さらに、看護力到達目標をレベル分けして詳細かつ具体的に定義し、それに沿って学生や教員はもとより、地域住民・医療従事者などからも評価を受けるという体制にも学ぶところが多い。また、短期大学部全組織を挙げて熱意をもって取り組む姿勢が認められ、すでに先駆的な取組を経験してきていることから、本取組の実現性は高いと期待できる。(文部科学省)



## 島根県立大学短期大学部 出雲キャンパス

〒693-8550 島根県出雲市西林木町151番地

TEL:0853-20-0200/FAX:0853-20-0201

(URL) <http://www.u-shimane.ac.jp> (Mail) [kyouikugp@izm.u-shimane.ac.jp](mailto:kyouikugp@izm.u-shimane.ac.jp)



島根県立大学短期大学部  
出雲キャンパス



# 取組の概要

本取組はeポートフォリオシステムと参画支援システムの展開により、学生の自己教育力を育成する教育方法を実現するものです。

今日の看護職が置かれている現状から、(1)医療の高度化・多様化、地域社会の変化に対応できるよう生涯学習できる人材、(2)看護職の離職が大きな社会問題となっており、その防止策として職業人として主体的にキャリア形成していける人材が求められています。

この認識のもと、本キャンパス内の教職員によるプロジェクトチームを結成し、「看護基礎教育の課程で、自己教育力を培い、主体的にキャリア形成していける人材を育成する」教育を展開するためのシステムを構築します。

具体的には、

看護力①豊かな人間性と倫理観

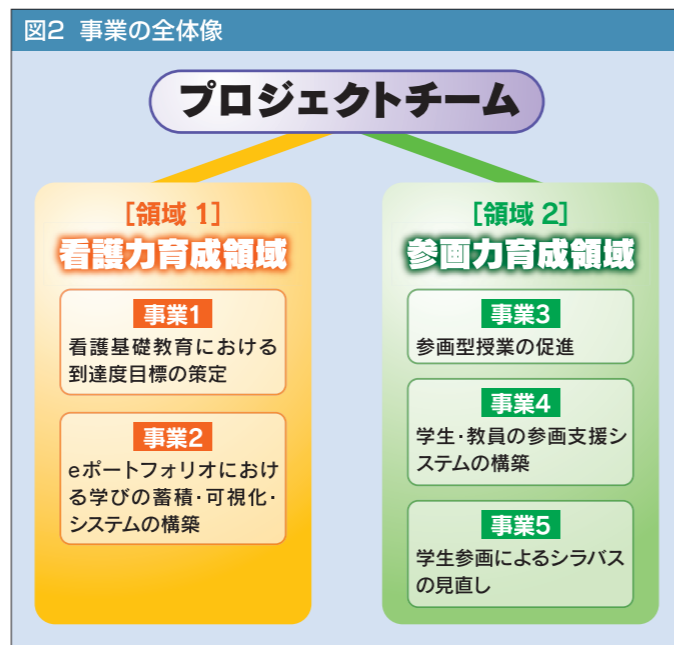
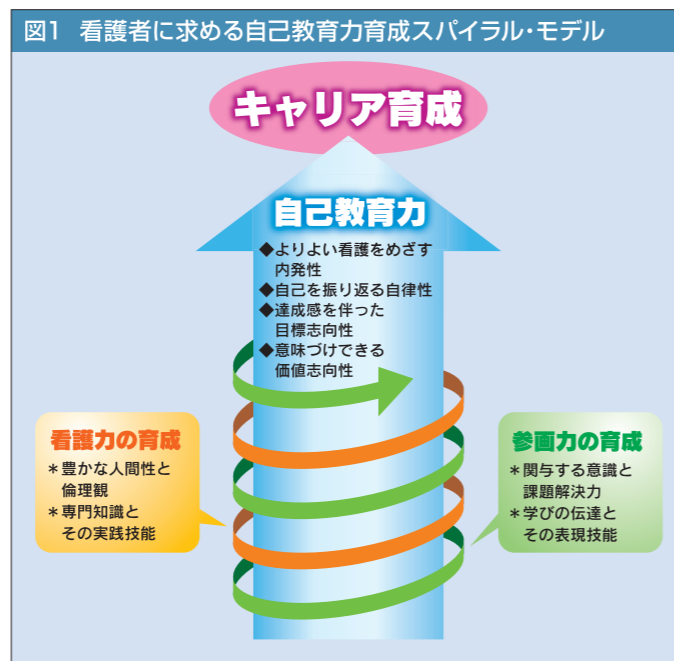
②専門知識とその実践技能

参画力①関与する意識と課題解決力

②学びの伝達とその表現技能

を育成していく教育方法を構築し展開することで、看護者としての自己教育力育成につなげていきます(図1)。

そのために、平成20年度から22年度にかけて、以下に掲げる2領域5事業を展開します(図2)。



【事業1】では、看護学の分類毎に卒業・修了時に到達して欲しい目標を設定し、さらにレベル別に表現した到達目標を策定します。

【事業2】では、2004年より複数の科目でポートフォリオ学習を試みてきた手法を発展させます。今回、具体的なレベル別到達目標を示すことで、成長する方向性を理解し、学びの蓄積・可視化を可能にするeポートフォリオを開発します。そして、登録制による地域住民・保健医療従事者を加え、学生による自己評価、学生・教員による相互評価、地域住民・医療従事者による他者評価など多様な評価システムを加え、意思ある学びを育むeポートフォリオシステムを構築します。

〈看護力育成領域〉

【事業3】では、2005年より参画型看護教育検討会として実践してきた教育方法を更に発展させます。具体的には、係活動により共同して進めるグループ学習、学生から投稿された学び・評価を次回の授業に活用、学生主導による実習カンファレンス等です。科目間の連携により、これらの有機的な展開を図ります。

【事業4】では、2006年より活用しているモバイル端末から投稿して参画・管理を容易にする参画支援ソフトウェアの改善と活用方法の多様性を検討し、参画支援システムを構築します。

【事業5】では、授業の履修者の協力を得て教員と共にシラバス作りを行い、学生の参画力向上と教員の授業評価・改善を同時に図ります。

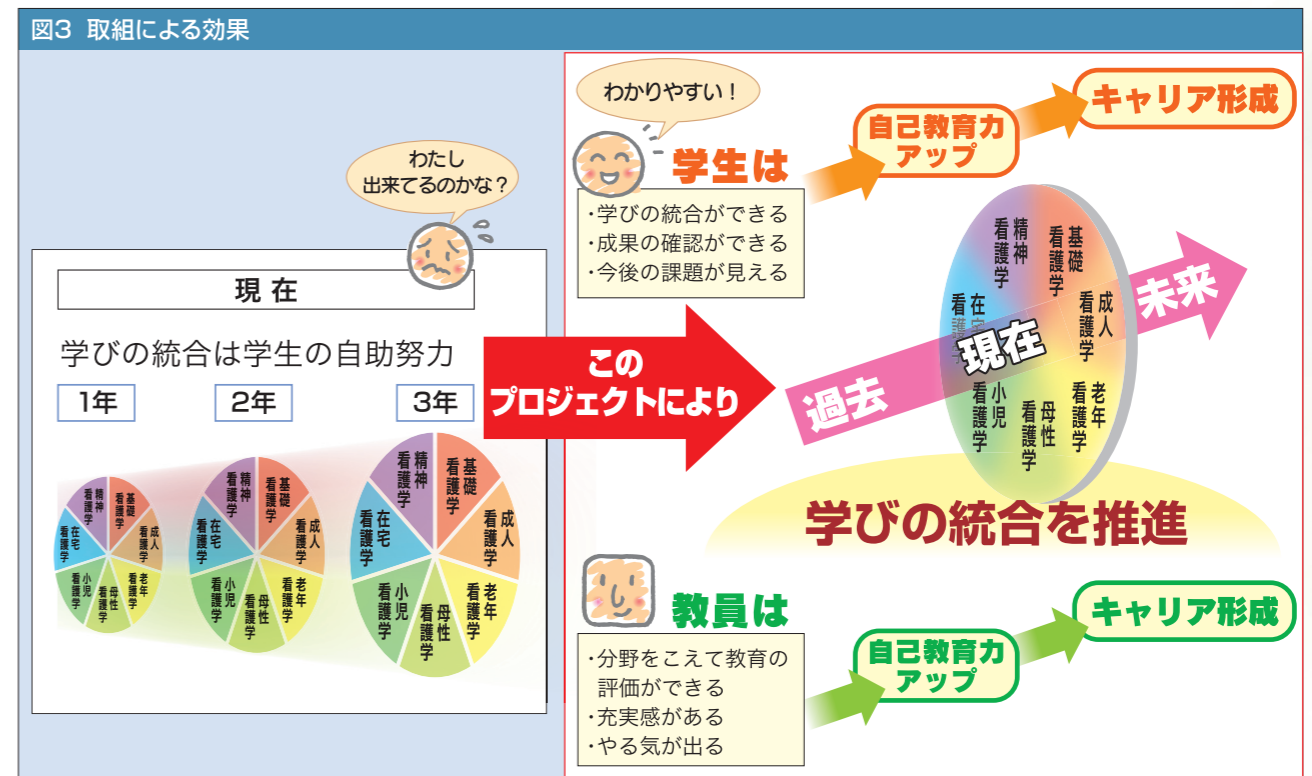
以上の2領域5事業を展開し、重層的な評価体制のもとに自己教育力育成のスパイラル・モデルが具現化することで、県内の医療施設や行政機関、看護協会等とつながり、卒業生・修了生ばかりでなく県内の看護者のキャリア形成につなげていくことが可能となります。

この取組による社会的貢献度は非常に大きいと期待します。

〈参画力育成領域〉

# 取組の効果

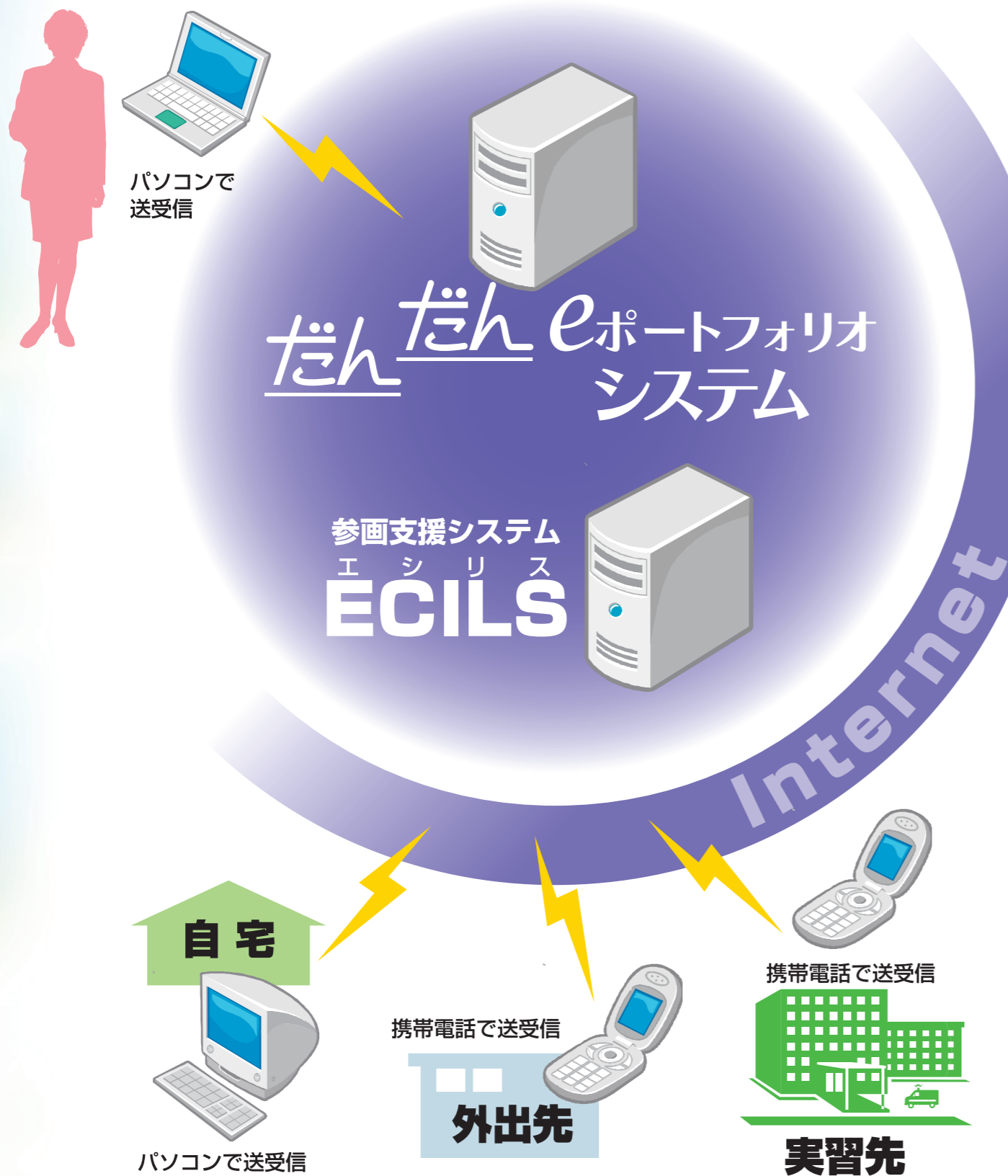
現在は一人ひとりの自助努力で学びを統合していますが、eポートフォリオは学びの統合を推進することができます。学生は「学びの統合ができる」「成果の確認ができる」「今後の課題が見える」ことで自己教育力が向上します。また、教員は老年看護学や精神看護学といった看護の「分野をこえて教育の評価ができる」ようになるため、充実感とやる気が増すことで自己教育力が向上します。学生も教員も自己教育力を育成することで、主体的なキャリア形成を培うことができます(図3)。





## 卒業後

継続活用により主体的なキャリア形成



場所、時間を選ばず、タイムリーに活用できます。



学内は無線LANアクセスポイントを設置、いつでもどこからでもアクセスできる環境を整えています。



# 看護力育成 “eポートフォリオシステム” ①

テキスト・画像・音声・動画などマルチメディアを用いて、自らの歩みや学びを可視化できます。

## 学生のプロフィール画面

## 教員のプロフィール画面

### 学生がプロフィールを入力することで...

- ・自分の歩んできた道や特徴が整理できます
- ・自分のことを他者に伝えるツールや資料となります
- ・就職・進学の際のエントリーシートの基礎資料となります

### 教員がプロフィールを入力することで...

- ・自分の歩んできた道や特徴が整理できます
- ・自分のことを他者に伝えるツールや資料となります
- ・大学が求める書類等に加工できます



## 学生の学びの蓄積画面

専門領域ごとにタブが分かれている  
タブをクリックするとその領域のマトリクスが表示される

クリックすると、その領域のレベル別到達目標が表示される

成果物のアップ状況やレベル別到達目標の達成状況が色で表示される

セルをクリックすると右のような画面が表示される

成果物・課題をアップすると蓄積される

学生へのフィードバック

卒業時に求められる能力

学生が提出した成果物に対して教員が“特に優れている”と判断した場合に設定する

| マトリクス    | レベルI | レベルII | レベルIII | レベルIV |
|----------|------|-------|--------|-------|
| 対象の理解    |      |       |        |       |
| 関わる力     |      |       |        |       |
| 倫理観・臨床判断 |      |       |        |       |
| 看護の知識    |      |       |        |       |
| 看護の技術    |      |       |        |       |

マトリクスの色の説明

|             |           |              |    |         |
|-------------|-----------|--------------|----|---------|
| 成果物をアップできない | 成果物をアップ可能 | 成果物がアップされている | 合格 | 特に優れている |
|-------------|-----------|--------------|----|---------|

各項目の課題提出履歴が表示される

課題以外に目標を達成したことを示す成果物を提出できる

課題以外の成果物の提出履歴が表示される

| No. | 科目名     | タイトル     | 出題日        | 締切日              | 提出日              | 採点結果    | コメント     |
|-----|---------|----------|------------|------------------|------------------|---------|----------|
| 22  | 老年看護対象論 | 高齢者の権利擁護 | 2009-08-18 | 2009-08-31 17:00 | 2009-08-18 18:20 | 80 (合格) | よくできました。 |

## 教員が行うサポート例：成果物・課題の評価やコメント

クリックすると、学生が提出したファイルを参照できる

教員は点数とコメントを入力する  
学生評価の一覧表を作成できる

| アカウント   | 学生氏名 | 提出物    | 提出日              | 採点                             |
|---------|------|--------|------------------|--------------------------------|
| 9999999 | 島根花子 | 提出物を確認 | 2009-08-18 18:20 | 80 (70) / 100 (採点)<br>よくできました。 |

## 学生が学びを蓄積することで...

- ・定義されたレベル別の到達状況が分かります
- ・学びが可視化できます
- ・教員からのアドバイスを受けることができます
- ・学びの軌跡を振り返ることで、課題を明確化できます
- ・インターネット環境下でいつでもどこからでも利用できます

## 課題と成果物の蓄積の流れ

- ①科目担当教員が課題内容と蓄積するセルやメ切などを事前に設定する
- ②学生がeポートフォリオ上に課題をアップすると自動的に蓄積される
- ③学生は課題以外の成果物も自由にセルを指定して蓄積できる
- ④教員が課題や成果物の評価やコメントを入力すると学生の画面に反映され、蓄積される
- ⑤教員は優れた課題や成果物に対し“特に優れている”マークを設定し、学生画面に反映させる



# 参画支援システム “E C I L S”

参画支援システム“E C I L S”を用いた授業を展開しながら、学生と教員が活用できる参画型看護教育をめざしています。参画支援システム“E C I L S”を活用した授業展開を実施することにより、教員は学生の主体的な授業参加をめざし、そして教員自身も、授業の計画立案・実施・評価する過程で教育力を高めることをねらいとしています。

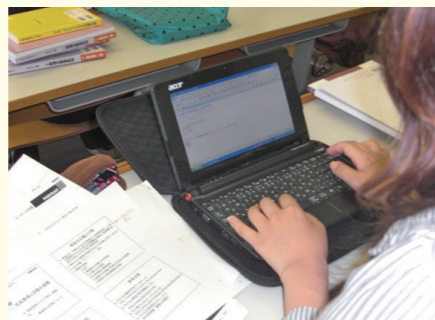
## 利用イメージ

### 授業中(学生)



授業中にアクセス

### 授業時間外(学生)



授業時間以外にもいつでも、どこからでもアクセス

### 管理サーバー



- ・出席管理
- ・小テスト
- ・アンケート

- ・課題提出
- ・メッセージ
- ・アンケート
- ・掲示板投稿・確認
- ・質問や回答確認
- ・緊急連絡網受信

### 教員



いつでもどこからでも…

- ・学生からの確認事項のデータ閲覧
- ・学生とのコミュニケーション
- ・学生への課題や問題等の送受信
- ・小テスト、アンケート、出席管理
- ・緊急連絡送信および開封履歴確認

## アンケート

その日の授業のテーマに沿って、クラス全体を対象にアンケート調査します。学生がそれぞれのモバイルPCで回答した結果は、リアルタイムで集計され授業中にデータとして公表されます。学生は提示されたテーマに関する自分たちの意識や実態などを踏まえながら授業を受け、そのテーマに関する興味・関心を高めることができます。教員は、授業テーマに関する学生の実態や反応を受止めながら、授業を展開することができます。

### [モニター調査で得られた学生の意見・感想]

- ・すぐにアンケート結果が分るので、授業をおもしろく感じた。
- ・授業内容に対して興味がわいた。

## 小テスト

授業開始時や終了時などに、その日の授業内容に関わる知識面の理解の状況を確認できます。学生がモバイルPCで回答した小テストの結果は、リアルタイムで集計され学生は自分の学習到達度やクラス全体の状況を把握することができます。看護職は国家資格取得が必要ですので、授業内容を確実に習得していく上でも、学習への動機づけをしていくことが求められます。教員は小テストの結果を元に教育内容や教育方法の妥当性・適切性を把握し、次の授業への課題を明確にすることができます。

### [モニター調査で得られた学生の意見・感想]

- ・どの程度理解できているかその場で確認できてよかった。

## メッセージ機能

学生と教員の双方向のコミュニケーションを促進するツールとして有効です。教員はその日の授業のテーマに沿って学生にメッセージ投稿(授業内容に関する教員からの発問)を求めたり、また学生からも独自に学びの内容や授業の感想・質問などを教員に発信することができます。学生は授業終了後にモバイルPCや自宅のPCなどを使って当該授業科目あてにメッセージ投稿をすることができます。教員は投稿されたメッセージを一括管理して、クラス全体の授業に対する反応を把握することができます。また送信された投稿メッセージに対して、個別の学生やグループ単位でメッセージの返信ができ、また、メッセージの返信は、パソコンか携帯電話を選択して送ることができます。双方向で発展的なコミュニケーションを展開することができます。

### [モニター調査で得られた学生の意見・感想]

- ・メッセージの内容をクラス内で公開している場合は、授業内容に関して仲間がどのように考えているのかが分かり、学びを共有することができた。
- ・自分の投稿メッセージを蓄積しているので、以前の自分の考えを確認したり、考えの変化を明確にすることができた。

このように日々の授業における一つひとつの実践を蓄積していくことを大切にしていけます。

学生は自ら看護学を学ぶ目的を意識化し、目的を達成するための行動を起こし、結果を得、それを評価する、そのような参画型の学習態度を身につける看護教育をめざしています。



# 関わる力を身につける コミットメント月間

## コミットメント月間とは…

日々の大学生活における様々な人との「であい」や「できごと」に意味を持たせ、一言（一文）に表現し、その価値をキャンパス内で共有する期間です。改めてキャンパスのみんなが持っている「人と関わる力」に気づき、身につける機会になればと考え、教育GPにおいて実施しました。

### 【平成21年度実績】

対象：島根県立大学短期大学部出雲キャンパスの 全学生・教職員・関係者  
 方法：○育ち・育てる「心に届いた一言」を記入用紙に記入し、投稿する  
 ○投稿された作品をキャンパス内に掲示し、共有する

●コミットメント月間のお知らせ●

## 心に届いた一言 大募集!!

コミットメント月間とは？

日々の大学生活における様々な人との「であい」や「できごと」に意味を持たせ、一言（一文）に表現し、その価値をキャンパス内で共有する期間です。改めてキャンパスのみんなが持っている「人と関わる力」に気づき、身につける機会になればと考え、教育GPにおいて実施しました。

期間：平成21年5月27日(水)～6月26日(金)

対象：★出雲キャンパスの全学生・全教職員の皆様  
 ★出雲キャンパスの関係者の皆様（業者の方など）

目的：学生を育て、教職員を育てる「心に届いた一言」を募集し、キャンパス内で共有する

方法：集え付けの記入用紙に、育ち・育てる「心に届いた一言」を記入し、投稿する

その他：★投稿された「一言」はすべて掲載します（氏名は公表しません）  
 ★記名のある投稿の中から優秀賞を選出します  
 ★学生の優秀賞には副賞があります

教育GP

## コミットメント月間 優秀作品発表!!

人と関わる力を身につけることを目的とし、「心に届いた一言」の募集を行いました。投稿作品の中から優秀作品を選出しましたのでお知らせします。

**深い話で賞♡看護学科3年次生 大野 智美さん**

利用者さんに言われた一言

健康な人はめんどくさいといながら行くことができる。僕（重度身体障害者）はすぐそこに行きたくても行くことすら出来ないんだよ。

思くて、ほんとうにその痛みと想った

**やるのは今で賞♡看護学科2年次生 渡部 純さん**

友達に言われた一言

将来どうなるかわかってなきゃ何もしゃいけないの？

やるんだ！と思った

**気がかされたで賞♡看護学科2年次生 渡部 展子さん**

患者さんに言われた一言

渡部さん、辛くても笑顔でね！

元気が出た

**やる気になったで賞♡専攻科地域看護学専攻 田村 めぐみさん**

親友に言われた一言

“ナースになる自信がないから、私ナースにできない”  
 っていうのはおかしいよ。「なれる」「なれない」でなく、「する」か「しない」かだよ。

やる気になった・思いついた  
 元気が出た・自信がもてた

**元気が出たで賞♡専攻科地域看護学専攻 辻 愛美さん**

地元の友達に言われた一言

夢があるってええことやん!!頑張ってるなあ!!

やる気になった・嬉しかった・元気が出た

**やる気になったで賞♡専攻科地域看護学専攻 羽田 弥里さん**

母に言われた一言

やる時はやる 休む時は休む 思い通りより  
 思いが通るように…

やる気になった・元気が出た

多数のご参加をいただき、ありがとうございました。  
 優秀作品に選出された方へは、7月8日に表彰式を開催いたします。

教育GP



●コミットメント月間表彰式を開催しました

# 参画力育成 シラバス作成研修会

## シラバス作成研修会とは…

参画力を「自らそこにコミットメントし、課題解決に向かう行動を企画・実施・評価・伝承していく力」と考え、「学ぶ側」「教える側」共にコミットメント力と課題解決力の向上をめざした「学生・指導者・教員によるシラバス作成研修会」を開催しました。

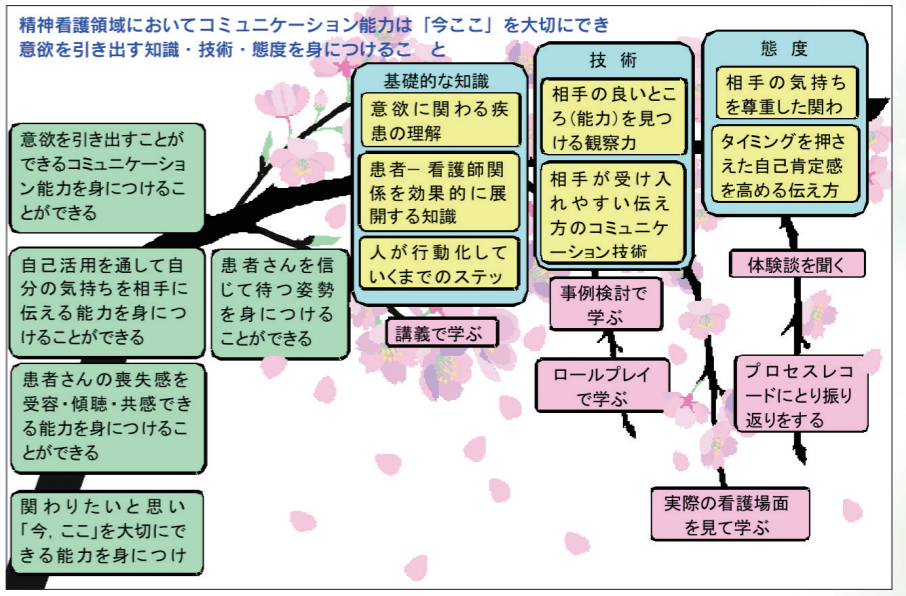
### 第1回研修会【平成20年度実績】

看護実践に共通して大切なコミュニケーションスキルの学習を取り上げ、「看護の場に活かせるコミュニケーション演習」のシラバス作りを企画しました。

島根大学教育学部長 肥後功一先生による基調講演「看護のための臨床コミュニケーション論」の後、「学ぶ側」「教える側」が一緒になって、「何をどのように学びたい(教えたい)のか」考えました。基礎看護・老年看護・在宅看護・精神看護の4領域で行い、それぞれが学習内容・方法を図解化したものを用いて発表し、意見交換しました。



●発表会の様子



●精神看護領域で作成した図解

**【効果】**

学生は、何をどのように学んだらよいか「教える側」と共に検討することで、課題解決の方法を学ぶことができました。

また、教員はシラバス作りにより教育内容の精選を図ることができ、実習指導者は教育計画過程が理解でき、実習指導の現場で、何を伝えたいか、どう関わりと良いか考えることができました。

### 第2回研修会(平成21年度)の取組計画

全ての看護領域に求められる看護倫理を取り上げ、慶應義塾大学看護医療学部教授 宮脇美保子先生による基調講演「看護基礎教育における看護の倫理教育を考える」の後、「看護基礎教育で学びたい看護倫理」のシラバス作りを行ないます。

実習病院から指導者の参加を募り、学生、教員と共にそれぞれが学習内容・方法を図解化したものを用いて発表し、意見交換します。



# 看護力・参画力・自己教育力の現状

看護基礎教育と臨床現場における“看護力”“参画力”“自己教育力”の現状を明らかにし、よりよい教育を検討するための基礎資料を得るために「看護学生の学習状況や学習到達度、将来への志向などに関する調査」、「看護業務に従事している看護者の職業継続の要因に関する調査」を行い、公表しています

日本看護学教育学会第19回学術集会(2009年9月・北見市)

## 看護学生の参画力の特徴と自己教育力との関係

●石橋照子, 梶谷みゆき, 吾郷美奈恵, 三島三代子

- 目的:** 自己教育力を有する看護者育成をめざし、参画力(自らそこにコミットメントし、課題解決に向かう行動を企画・実施・評価・伝承していく力)を育む看護基礎教育を検討している。本研究では看護学生の参画力の特徴と自己教育力との関係を明らかにすることを目的とした。
- 研究方法:** 2008年度終了時に、看護の短期大学・専攻科在籍中281名の学生を対象とし、自記式質問紙調査を行った。参画力測定は、リクルートワークス研究所による仕事に必要な基礎力項目に4項目を追加し、4側面42項目で構成したものを用い、「そう思う:5」から「そう思わない:1」までの5段階尺度で調査した。自己教育力測定は、(梶田, 1992)の尺度に(西村, 1995)が追加した自己教育力測定尺度40項目を用いた。参画力を構成する各側面の比較及び自己教育力得点との相関について検討した。本研究は所属施設の倫理審査委員会の承認を得て実施した。
- 結果:** 参画力の在籍課程の特徴としては、看護師養成課程より保健師・助産師養成課程の方が平均得点は高く、看護師養成課程の学年間においては、1年生・3年生と比較して2年生に低い傾向が見られた。側面毎の傾向としては、対人基礎力、対自己基礎力、対課題基礎力の順に平均得点は低くなり、学びの伝承力が最も低い値であった。参画力と自己教育力の得点は有意な正の相関関係を示した(Pearsonの相関係数0.617,  $p < 0.01$ )。
- 考察:** 参画力のサブカテゴリー中、課題発見力、計画立案力、学びの伝承力の平均得点が他に比較して低く、教育方法の工夫が必要と考える。今後、在籍課程の進行に伴う変化については追跡調査が必要である。

日本看護学教育学会第19回学術集会(2009年9月・北見市)

## 看護師養成課程と保健師養成課程で学ぶ学生の看護力と自己教育力の現状

●吾郷美奈恵, 梶谷みゆき, 三島三代子, 石橋照子

- 目的:** 看護職に求められる能力は多様化・高度化し、自らキャリア形成し職業継続が可能な看護者を育成するための看護基礎教育のあり方が課題となっている。今回の目的は、看護師と保健師の養成課程で学ぶ学生の看護力と自己教育力の現状を明らかにすることである。
- 研究方法:** 看護師養成3年課程(各学年80名)と保健師養成1年課程(30名)の全学生を対象に、平成20年度終了時に自記式アンケート調査を行った。調査内容は在籍課程などと看護力(看護学教育の在り方に関する検討会2004)、自己教育力(梶田1985, 西村ら1995)である。看護力は18項目で、「そう思う」「ややそう思う」「どちらともいえない」「ややそう思わない」「そう思わない」の5段階尺度で調査した。また、自己教育力は「成長・発展への志向」、「自己の対象化と統制」、「学習の技能と基盤」、「自信・プライド・安定性」の4側面からなり、それぞれ10項目を「はい」「いいえ」の2者択一で調査した。この研究は所属施設の倫理審査委員会の承認を得、研究の主旨や評価とは関係ないことなどの倫理的配慮について文書と口頭で説明し、自由意思による協力を求めた。また、調査は無記名で行い、所定の場所に自主提出をもって承諾とした。データはSPSS14.0を用いて分析した。
- 結果:** アンケートの回収率は看護師養成課程では1年次生71.3%、2年次生80.0%、3年次生83.3%で、保健師課程は93.3%であった。看護力は看護師課程の1年次生と2年次生で大きな差はなく、3年次生で強くなる傾向があった。また、看護師課程3年次生と保健師課程で「ややそう思う」と「そう思う」の合計に差が大きかった項目は、「集団を対象とした支援ができる」27.3%に比し63.0%、「看護サービスを提供する組織の理解」42.4%に比し70.4%、「看護の専門性を深めていくことができる」37.9%に比し66.7%、などであった。自己教育力は看護師課程で学年進行に伴う変化は認められず、看護師課程3年次生は $22.75 \pm 4.63$ 、保健師課程 $25.50 \pm 3.78$ で有意な差は認めなかった。また、いずれの側面も看護師課程3年次生に比し保健師課程が高かったが有意な差は認めなかった。
- 考察:** 看護力は養成課程の特徴を反映しており、自己教育力は学んだ期間が長いほど高くなると思われた。今後は、縦断的な調査等によりその変化を検討すると共に、看護力や自己教育力に影響する要因についても検討していく必要がある。

日本看護学教育学会第19回学術集会(2009年9月・北見市)

## 職業継続意欲と参画力・看護力・自己教育力の関連

●三島三代子, 吾郷美奈恵, 石橋照子, 梶谷みゆき

- 目的:** 本学では主体的にキャリア形成でき、職業継続が可能な人材を育てるべく参画力・看護力・自己教育力の育成に取り組んでいる。今回はこれらの能力と職業継続意欲との関連を明らかにする。
- 研究方法:** A県内200床以上の病院で看護部責任者から調査に協力が得られた病院(協力率91.3%)に勤務する全看護職3,670名を対象に、自記式質問紙調査を行った。「参画力」42項目、「看護力」18項目、「職業継続意欲」6項目の測定尺度を作成し、「そう思う」から「そう思わない」の5段階評定とした。信頼性の確認にはクロンバック $\alpha$ 係数を求め、各尺度得点(項目平均値)を算出した。「自己教育力」には梶田・西村の「自己教育力測定尺度(40項目・40点)」を用い合計点を算出し、各尺度得点を変数として相関係数を求めた。分析にはSPSS11.0Jを用い空欄は分析ごとに除外した。調査期間は2008年12月から2009年3月である。回収は留置法とし、倫理的配慮として質問紙は無記名、説明文書を添付し、厳封の上、提出をもって同意とみなした。なお所属施設の倫理委員会にて承認を得た。
- 結果:** 調査票の回収数3,031(回収率82.6%)、有効回答数2,859(有効回答率94.3%)、白紙及び設問単位で無回答があったものは除外した。1. 対象の属性: 女性94.5%、男性5.1%、平均経験年数 $15.2 \pm 10.6$ 年。看護師免許所有者85.2%、保健師免許所有者5.1%、助産師免許所有者3.5%、准看護師19.9%。2. 「職業継続意欲」と各能力の関連: 各尺度得点は「職業継続意欲( $\alpha = .816$ )」 $3.56 \pm 0.69$ 点、「参画力( $\alpha = .968$ )」 $3.16 \pm 0.54$ 点、「看護力( $\alpha = .950$ )」 $3.29 \pm 0.58$ 点、「自己教育力(計40点)」 $21.75 \pm 5.27$ 点であった。「職業継続意欲」と各能力の関連では、「参画力」との相関がもっとも強く $r = .58$ 、次いで「自己教育力」 $r = .52$ 、「看護力」 $r = .44$ でいずれも比較的強い正の相関があった。能力間では「参画力」と他の能力との相関(「自己教育力」 $r = .68$ 、「看護力」 $r = .73$ )がもっとも強かったが、各能力間すべてに.5以上の相関がみられた。
- 考察:** 各能力の平均値は全体に高くはなかったが、各能力には比較的強い関係があり、スパイラルに育成されていくものと推測された。また、いずれの能力も職業継続意欲を高める可能性が示唆された。中でも「参画力」は得点は低かったが、各能力や「職業継続意欲」との相関がもっとも強く、今後育成を図る必要があると考えられた。

第29回日本看護科学学会学術集会(2009年11月・千葉市)

## 看護職の看護力・参画力・自己教育力と職業継続意欲との関連

—構造方程式モデルによる分析—

●三島三代子, 吾郷美奈恵, 梶谷みゆき, 石橋照子

- 目的:** 本学では主体的にキャリア形成でき、職業継続が可能な人材を育てるべく参画力・看護力・自己教育力の育成に取り組んでいる。今回はこれらの能力と職業継続意欲との関係性をパス解析により明らかにする。
- 研究方法:** 島根県内200床以上の病院で看護部責任者から調査に協力が得られた病院(協力率91.3%)に勤務する全看護職3,670名を対象に、自記式質問紙調査を行った。「対人能力」「対自己能力」「対課題能力」「伝承力」の4つの下位尺度からなる「参画力」42項目と「看護力」18項目、「職業継続意欲」6項目の測定尺度を作成し、「そう思う(5点)」から「そう思わない(1点)」の5段階評定とした。信頼性の確認にはクロンバック $\alpha$ 係数を求め、各尺度得点(項目平均値)を算出した。「参画力」は下位尺度の項目数が異なるため、下位尺度得点の平均値を求めた。「自己教育力」には梶田・西村の「自己教育力測定尺度(40項目・40点)」を用い合計点を算出した。各尺度得点を変数として相関係数を求め、それに基づき作成した因果関係モデルについてパス解析を行った。分析にはSPSS11.0J, Amos5を用い、空欄は分析ごとに除外した。調査期間は2008年12月から2009年3月である。倫理的配慮として質問紙は無記名、提出は自由意思とした。個々に厳封した後看護管理部を通じて回収することとし、文書により依頼した。島根県立大学短期大学部研究倫理審査委員会にて承認を得た。
- 結果:** 調査票の回収数3,031(回収率82.6%)、有効回答数2,859(有効回答率94.3%)、白紙及び設問単位で無回答があったものは除外した。1. 対象の属性: 女性94.5%、男性5.1%。平均経験年数 $15.2 \pm 10.6$ 年。取得免許: 看護師85.2%、保健師5.1%、助産師3.5%、准看護師19.9%。2. 職業継続意欲と各能力の関連: 各尺度得点は「職業継続意欲( $\alpha = .816$ )」 $3.56 \pm 0.69$ 点、「参画力( $\alpha = .968$ )」 $3.14 \pm 0.56$ 点、「看護力( $\alpha = .950$ )」 $3.29 \pm 0.58$ 点、「自己教育力(計40点)」 $21.75 \pm 5.27$ 点であった。探索的にパス解析を行い、モデルは良好な適合度指標が得られた。「参画力」から「自己教育力」「職業継続意欲」にはそれぞれ有意な影響を認め(標準化パス係数: .67, .40)、「自己教育力」から「職業継続意欲」にも.25の有意な影響がみられた。「看護力」から「自己教育力」「職業継続意欲」には有意な影響がみられなかったが、「看護力」と「参画力」には.73の相関がみられた。また「看護力」を除外したモデルは成立しなかった。
- 考察:** 「参画力」は「自己教育力」を高め、「職業継続意欲」も高める重要な要素であると考えられた。しかし、看護力を除外するとモデルが成立しなかったことから、基本となる看護力の強化を通して参画力を高めていくことが必要であると考えられる。今後、看護基礎教育や継続教育においてもこれらの能力の育成を意図した関わりが重要である。